

素案

これからの図書館がめざすもの

－ 石狩市民図書館ビジョン－

2020 年度策定

石狩市民図書館

第1章 はじめに

第2章 構成

第3章 石狩市民図書館がめざすもの ～人々の喜びを生みだすこと～

1. 子どもの学びを支援する
2. 資料提供や情報発信を通じて生涯学習を支援する
3. 市民の誰もが利用できるような環境を整備する
4. サービスを支える基盤を整備する
5. 利用者の期待に応える蔵書・情報源を構築する

第4章 石狩市民図書館が今後5年間に重点的に取り組む施策

1. 子どもの学びを支援する
2. 資料提供や情報発信を通じて生涯学習を支援する
3. 市民の誰もが利用できるような環境を整備する
4. サービスを支える基盤を整備する
5. 利用者の期待に応える蔵書・情報源を構築する

これからの図書館がめざすもの —石狩市民図書館ビジョン—

2020 年度策定

第 1 章 はじめに

策定の趣旨

石狩市民図書館（以下「市民図書館」という。）は、「石狩市図書館基本計画」に基いて平成 12 年に建設、開設以来 20 年が経過しました。

市民図書館は、生涯学習施設としての役割はもとより、図書館のなかにまちをつくるコンセプトの元、多くの人が集い、憩う場として、市民生活にたいへん密着した施設として活用されてきました。

一方、少子化・超高齢化の急激な進展など、本市をとりまく環境は大きく変化しており、市民図書館も、さらに時代の変化に呼応した事業展開を図ることが求められています。

このような背景の下で、これまでの図書館運営の成果と課題を元に、これからの図書館運営の方向性を明確にし、よりよい社会づくりに向けて市民とともに成長する図書館となることを目的として「(仮) 市民とともに育つ図書館をめざして—石狩市民図書館ビジョン—」（以下「ビジョン」という。）を策定します。

対象とする期間

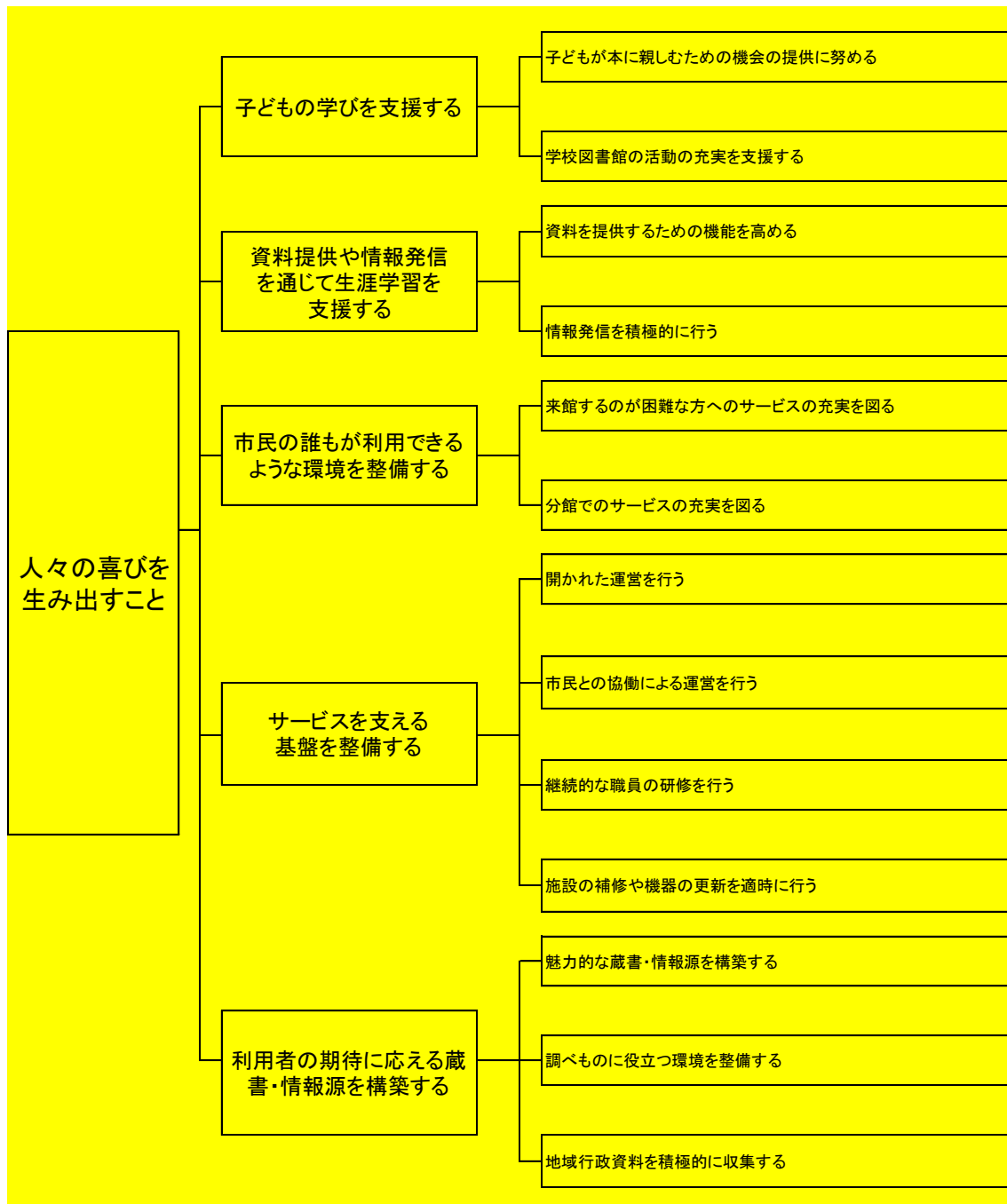
ビジョンは、石狩市教育委員会が策定する教育に関する方向性を定めた「石狩市教育プラン」（令和 2 年策定予定）との整合を図るため、石狩市教育プランの計画期間である令和 2 年から 5 ヶ年を想定しています。

第2章 構成

石狩市民図書館

ビジョンの構成は、以下のとおりです。

施策の五つの柱は、「石狩市教育プラン」における施策項目にそれぞれ対応しています。



第3章 石狩市民図書館がめざすもの

市民の幸せのために

市民の暮らしにとって何よりも大切なもの、図書館。

地域に図書館をとの多くの市民の声によって平成12年6月に本館と三つの分館でオープンした市民図書館は、平成17年に厚田村、浜益村と合併し、それぞれの分館を設置し対象エリアを広げました。図書館ボランティアは、読み聞かせ、修理や創作、イベント支援などさまざまなジャンルで多くの市民による活発な活動が行われています。また、学校図書館では、これまでの小学校に加え平成29年度から中学校への学校司書派遣も開始し、図書館機能の充実を図っています。

これまで図書館は、本や図書館を大切に思ってくださる多くの市民、図書館協議会委員、図書館ボランティア、読書活動団体や読書家によって支えられて来ました。運営にあたってはたいへん暖かく見守っていただく一方、具体的で厳しい意見をいただきながら改善にも努めてきました。

情報通信技術の急激な進展や人生100年時代など社会環境やライフサイクルが急激に変化し先行きの見えない現代において、これまで以上に市民に身近に感じられる図書館である必要があります。また、地域の課題が複雑化高度化しており行政だけではその解決に至らない現実、また、知識基盤社会がさらに進むことを考えると、よりよい社会づくりには市民一人ひとりがいままでの慣習や経験にとらわれず新たな仕組みを作り出すことも必要です。

図書館はこれからも、市民の図書館として魅力的な蔵書構築やさまざまな情報の提供など、自らの学びの支援に取り組みながら、地域がもっと暮らしやすくなるための一緒に考えていく市民のみなさんと共に成長できる図書館でありたいと考えています。

1. 子どもの学びを支援する

(1) 子どもが本に親しむための機会の提供に努める

読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。市民図書館は、家庭、地域、学図書館など様々な場所で子どもが本に親しむことができるよう、各種の事業を展開するとともに、情報提供に努めます。

(2) 学校図書館活動の充実を支援する

学校は、子どもが一日の大半を過ごす場であり、学校図書館は、児童・生徒にとってもっとも身近な図書館です。市民図書館は、学校図書館と連携しながら蔵書の充実・体制整備を図り、子どもがより多くの本に触れ、また、図書館の活用方法を身につけることができるよう取り組みます。

2. 資料提供や情報発信を通じて生涯学習を支援する

(1) 資料を提供するための機能を高める

利用者は、多種多様な資料を求めて図書館を訪れます。市民図書館は、調べものの相談用データベースの活用や友好図書館、他の図書館との協力関係等を通じてさまざまなニーズに基いた資料が提供できるよう努めます。

(2) 情報発信を積極的に行う

本には、多くの知識や情報がふんだんに載っていますが、文化財をはじめとする様々な文物や古人の知恵と結びつけることで、さらに豊かな知的刺激を与えてくれます。市民図書館は、収集した資料や活動状況などの情報発信に努めるとともに、他の機関や団体と連携を図りながら各種事業を展開することで、市民の生涯学習活動を支援します。

3. 市民の誰もが利用できるような環境を整備する

(1) 来館するのが困難な方へのサービスの充実を図る

市民図書館は、施設がバリアフリーであること、利用のハードルが低いことなどから、

多くの方に利用していただいています。一方、市民図書館に足を運ばなくともより図書館サービスを利用できるようにしてゆくことも重要な課題であり、図書館資料の利用に困難が伴う方々に向けて、資料の宅配サービスを実施や図書館以外でも本の返却が可能となるサービスポイントを設置するなど誰もが利用できるようサービスの充実に努めます。

(2) 分館でのサービスの充実を図る

市内3か所に設置した分館は、スペースの制約があるため蔵書はけっして多くありませんが、本館や他の分館等で所蔵している図書館資料を受け取るサービスポイントの機能をはじめ地域拠点としての重要な役割を果たしています。それぞれの地域に様子やニーズに合わせて計画的に特集や展示などを行うことで分館における図書館サービスの充実を図ります。

4. サービスを支える基盤を整備する

(1) 開かれた運営を行う

市民図書館は、インターネットや資料提供などさまざまな手段を活用して事業やサービスについての情報を積極的に公表し、市民が図書館の運営状態について、いつでも知ることができるような環境を整えます。

(2) 市民との協働による運営を行う

図書館の主役は、ひとりひとりの利用者や市民です。市民図書館を名実ともに「市民の図書館」とするためには、できるだけ多くの人々と対話し、市民の誰もが図書館の運営に参画できるようにしてゆかなければなりません。ボランティアや図書館を拠点に活動する団体等の声を聴き、共に考え、行動することで図書館機能を高めるほか、市民の交流拠点として、市民活動を支援します。

(3) 継続的な職員の研修を行う

図書館職員の能力は、図書館サービスの質に大きな影響を及ぼします。市民図書館は、市民からの質問や読書相談に応え、子どもへの読み聞かせなどの充実を図るために、司書資格を持つ職員を配置すると同時に専門性や業務上必要な知識向上のために職員の研修に努め、サービスのさらなる向上を目指します。

(4) 施設の補修や機器の更新を適時に行う

利用者が安心して、かつ快適な環境で図書館を利用できるようにするためには、施設・設備面での充実が欠かせません。市民図書館は、適切なタイミングで施設の点検、補修を行い、施設を永く使用できるようにするとともに、新しいメディアの普及に対応し、適切

なタイミングでコンピュータや AV 機器等を更新し、快適な利用環境を維持します。

5. 利用者の期待に応える蔵書・情報源を構築する

(1) 魅力的な蔵書を構築する

利用者は、読みたい本、知りたい情報を求めて図書館にやって来ます。市民図書館は、こうした期待に応えるために、利用者が必要とする本を着実に保存すると同時に、新たな本を毎年一定程度購入し、魅力的な蔵書・情報源を構築するよう努めます。

(2) 調べものに役立つ環境を整備する

情報が大きな力を持つ現代においては、調べものの支援は図書館の重要な役割です。市民図書館は、この役割を十分に果たすために、蔵書の充実を図ることに加え、インターネットを活用した調査研究環境を提供します。

(3) 地域行政資料を積極的に収集する

特に石狩に関する資料は、地域について知るうえでも、祖先の営みを知るうえでも、そして現在を生きる私たちの活動の子孫に伝えるうえでも、非常に重要なものです。市民図書館は、こうした地域行政資料を積極的に収集し、着実に保存することで、石狩の文化の共有を図ります。

第4章 石狩市民図書館が今後5年間に重点的に取り組む施策

1. 子どもの学びを支援する

■目的

子どもが本に親しむための機会の提供に努めるとともに、子どもにとって最も身近な図書館である学校図書館を支援します。

■成果指標

指標の名称	単位	平成30年度 (実績)	令和6年度 (目標)
学校図書館図書標準達成校数	校	小 9	全校
		中 3	
調整中			

■関連事業

施策・事業	区分	事業の概要
ブックスタート*	継続	10ヶ月児健診会場でブックスタート・パック無料配布と、そのフォローアップとして、1歳6ヶ月健診会場における読み聞かせを実施
おはなし会	継続	ボランティア等の協力を得ながら、おはなし会・ブックトークを実施
図書館利用ガイダンス	継続	図書館の利用方法や調べ方についてのガイダンスを実施
学校独自の取組	拡充	学校図書館活用による朝読書など、学校ごとに特色ある読書習慣形成の取組を推進
家読（うちどく）*	継続	第2のブックスタートとなるアプローチを検討し、家庭での読書活動を支援
調べる学習コンクール*	継続	図書館や学校図書館の資料、市内の様々な資源などを活用し、児童自らがテーマを決め、調べ、まとめるコンクールを実施
子どもの自発的な活動の支援	拡充	関係機関などと連携し、研修機会や情報提供などのほか、子ども司書など子どもが自発的に本や読書に親しめるような事業を実施

学校図書館の蔵書の充実	継続	学校図書標準を目安に各小中学校の実情に応じた蔵書の充実と廃棄を実施
学校図書館の体制整備	継続	学校図書館等整備方針を基に司書配置やオンライン化等の体制整備を実施
ネットワークを活用した読書支援	継続	図書館に来ることのできない児童に対し、学校を介して図書館の蔵書を活用する方法を検討
学校司書の資質向上	拡充	研修により学校司書の専門性を伸ばすとともに、学校の教育活動と連携

*ブックスタート＝図書館司書や保健師などが、それぞれの立場から、赤ちゃんや絵本を囲んで気持ちを通わす時間の楽しさと大切さを保護者に伝えながら、絵本や読み聞かせのアドバイスなどの入ったブックスタート・パックを無料で手渡すもの。全ての家庭において、本の読み聞かせを通じた親子のふれあいの時間をもつことができるよう支援することを目的としている。

*家読（うちどく）＝読書習慣の定着や家庭でのコミュニケーションを深めるために行う事業。

*調べる学習コンクール＝公益財団法人図書館振興財団が主催するコンクール。石狩市は、平成 24 年度から地方予選となる「石狩市調べる学習コンクール」を実施している。

2. 資料提供や情報発信を通じて生涯学習を支援する

■ 目的

利用者が求める文献・情報を提供する機能を高め、また、所蔵資料の活用や他機関との連携を通じた情報発信を積極的に行うことにより、生涯学習活動を支援します。

■ 関連事業

施策・事業	区分	事業の概要
情報提供機能の強化	継続	データベースを活用し、レファレンスサービス*の質を高めるとともに、相互貸借制度*や国会図書館のデジタル資料閲覧サービス等により、所蔵していない情報の提供機能を強化
友好図書館交流	継続	宮城県名取市図書館、石川県輪島市立図書館と資料交換、相互貸借やボランティア交流等を実施
情報の発信	拡充	蔵書やインターネットの活用により、地域情報はじめとするさまざまな情報を発信
（仮）図書館活動 PR のためのイベントの充実	新規	

(仮) 利用者同士の交流を うながすような事業の実施	新規	
-------------------------------	----	--

*レファレンスサービス＝利用者に対して図書館員が行なう人的な援助。主に、求めている文献そのものや、文献の探し方を提示することなど。

*相互貸借制度＝自館に無い資料を他自治体の図書館や機関の協力を得て取り寄せる制度。

3. 市民の誰もが利用できるような環境を整備する

■目的

高齢者や目・耳などに障がいのある方、また、その他の理由で市民図書館に来館することが困難な方へのサービスの充実を図り、誰もが図書館のサービスを楽しむことができます。

■成果指標

指標の名称	単位	平成 30 年度 (実績)	令和 6 年度 (目標)
貸出件数	点	543,969	

■関連事業

施策・事業	区分	事業の概要
来館が困難な方へのサービスの充実	継続	宅配サービスや返却等のサービスポイントの設置、出張貸出等により、来館が困難な方へのサービスを実施
分館でのサービス活性化	継続	本館で行った事業の成果・記録を分館においても利用または実施

4. サービスを支える基盤を整備する

■目的

市民とともに歩む図書館を目指し、運営に関する情報を積極的に公開するとともに、対話の場を増やし、市民との協働を進めます。

また、施設の補修や情報機器等の更新を適切に行うことで利用しやすい環境を提供するとともに、専門的職員の配置や職員の資質向上を図るなど、基本サービスの充実に不断に取り組めます。

■関連事業

施策・事業	区分	事業の概要
運営状況の公表	継続	ホームページや図書館だより、要覧など、さまざまな媒体を活用し、図書館の運営状況を積極的に公表
市民協働による事業展開	拡充	市民やボランティア団体との協働により、市民とともに歩む図書館を目指した事業を展開 ・図書館まつり（協働で企画・運営） ・科学の祭典 in 石狩（実行委員会の支援）
施設の補修・機器の更新	継続	施設の補修・情報機器等の更新を適切に実施
職員の資質向上	継続	職員の研修を継続的に行い、サービス・事業を質的に向上

5. 利用者の期待に応える蔵書・情報源を構築する

■目的

魅力的な蔵書を構築して利用者の多様なニーズに応えるとともに、インターネット環境の活用を通じて、調べものに役立つ環境を整えます。

■成果指標

指標の名称	単位	平成 30 年度 (実績)	令和 6 年度 (目標)
石狩市民図書館（本館）の入館者数	人	236,080	
当該年度に受け入れた寄贈資料点数	点	2,100	
地域行政資料の点数	点	30,223	

■関連事業

施策・事業	区分	事業の概要
魅力的な蔵書・情報源の構築	継続	毎年一定程度の新鮮な資料（雑誌・新聞を含む）を購入し、魅力的な蔵書を構築
寄贈図書への活用	継続	寄贈図書やスポンサー雑誌等による蔵書の充実
地域行政資料の充実	拡充	特に石狩に関するあらゆる形態の資料収集を行うとともに、整備・活用を強化
インターネットによる調査研究環境の充実	継続	利用者が持ち込んだコンピュータ等を活用し、インターネットで調査研究できる環境を整備